

# ずっと 一緒だよ

広島県立広島中央特別支援学校

小学部第6学年 竹村 心吾

ずっと一緒だよ

六年 竹村 心吾

私には「優衣」という妹がいた。妹が亡くなって一年たった。今の気持ちを整理しておこうと思う。

妹はテイサックス病という病気で寝たきりだった。妹は、自分では呼吸ができないから、呼吸器を付けていて、吸引が必要だったから吸引器も使っていた。話したりすることはできないけれど、表情を通してコミュニケーションを取っていた。例えば、私が何か話をしてあげると、にこにこした笑顔になる。いやな時には歯をくいしばっている表情だった。妹と過ごす毎日はずしかった。

しかし、妹は病気が進行したため、八歳で亡くなった。その日、わたしはいつものように学校から一人で帰ってきた。いつもはいないのに、父が玄関で待っていた。家に入る前に父に妹が亡くなったということを聞いた。その瞬間、何も考えられないぐらい悲しくて、その場で今までにないぐらい「わあーっ。」と泣いた。

妹が亡くなってから毎日悲しい気持ちのまま、一日学校を休んだ。一番悲しかったのは、お葬式が終わり火葬場に行く前だった。

「もう妹とは会えないんだな。」  
と、思っただけ涙が止まらなくなった。

家に帰ると、いつもなら聞こえるはずの妹の呼吸器の音がなくて変な感

じがした。お仏だんの上の妹の写真や、アイパットの中の写真を見ると寂しい気持ちになった。私はずっと寂しかった。

次の週、おばあちゃんが家に来てくれた。私が悲しい気持ちの時、おばあちゃんは、

「妹は亡くなったけれど、みんなの心に生きてるよ。」

と、言った。その言葉を聞いて私は、

「ほんとかな。」

と、すこし考えて自分の心に問いかけた。

「本当にそうかもしれない。自分は気づかないところで妹は見ていてくれるかもしれない。」

と、思った。おばあちゃんには

「そうだね。」

とだけ言った。

おばあちゃんの言葉で心を整理することができた。それからあとは、学校から帰るとすぐにお仏だんの前で話をしたり、旅行に行く時もずっと一緒だと思えたりするようになった。

今は、悲しい気持ちよりずっと一緒にいるという気持ちの方が大きくなっている。だから、私はいつもこう思っている。

「優衣、ずっと一緒だよ。」

### < 指導者の言葉 >

国語科で、体験したことから自分の考えを作文にまとめる学習をしました。その際、妹の死という悲しい体験からちょうど1年経って、自分の気持ちがどのように変化したのか、どうやって悲しさを乗り越えられたのかをまとめることにしました。本児童も1年前と今との自分の心の変化に気付いており、1年経った今だからこそ気持ちの変化をまとめることができると考えたようです。

作文を書いた方法としては、何を一番伝えたいかを考えました。それは、「妹が亡くなったときはとても悲しかったけど、今は、悲しいというよりは、いつも一緒にいるんだという気持ちが強い。」ということです。次にどうしてそのような感情に至ったのかという理由を掘り下げ、「おばあちゃんの言葉」をキーワードにして構成することにしました。伝えたいことを、時間経過に沿って構成メモをつくりました。その構成メモをもとに、気持ちの変化を丁寧に押さえていきました。表現を指導する際、「悲しい」という言葉だけではなく、『今までにないぐらい「わあーっ。」と泣いた。』など、自分の気持ちを行動とともに詳しく表現でき、表現の幅が広がるように指導しました。

児童は、細かな気持ちの変化を文章によって表現することを通して、自分の気持ちを見つめ直し、大切な記録を残すことができたと考えています。児童には、気持ちを整理していくことで、改めて妹の存在、それを取り巻く家族の存在が自分の支えとなっていることを感じてほしいと願っています。